

開講科目名 / Course	在宅看護援助論	
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second, Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、姫野 雄太、矢野 亜紀子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	在宅看護援助論では、在宅看護学概論で習得した在宅看護の基本的な考え方、援助方法、ケアマネジメント、社会資源、多職種連携などの知識を基盤に、紙上事例を通じて、在宅療養者とその家族に対する看護展開を学ぶ。授業は講義とグループワーク形式で行う。	
到達目標	1. 事例において、在宅療養者とその家族に対する看護過程を展開できる。 2. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した看護計画を立案できる。 3. 在宅看護で用いる看護技術の方法を説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ	
授業計画	01. オリエンテーション、在宅看護の実際ー事例をまじえてー（外部講師） 02. 事例による看護展開（1）グループワーク：情報整理 03. 在宅看護で遭遇する看護援助技術（在宅酸素療法、中心静脈栄養など） 04. 事例による看護展開（2）グループワーク：アセスメント 05. 事例による看護展開（3）グループワーク：看護課題の抽出 06. 事例による看護展開（4）グループワーク：看護計画の立案 07. 事例による看護展開（5）発表 08. 事例による看護展開（6）発表	
その他の授業の工夫	視聴覚素材を用い、在宅療養および在宅看護についてイメージできるようにする。 外部講師として在宅看護の第一線で働く訪問看護師を招き、在宅療養、在宅看護の実際を臨場感をもって伝える。 学生が主体的に学ぶため、グループワーク、討議、発表など、アクティブラーニングを実施する。 グループワークでは、グループへの積極的な参加・貢献について、自己・他者評価を行う。	
時間外学修	事前学修： 【講義】事前配布される講義資料を用いて予習を行う（4h）。 【グループワーク】担当事例について予習を行う（8h）。 事後学修： 【講義】講義内容に関するレポートを作成する（2h）。 【グループワーク】教員に指導を受け、看護過程を修正する（8h）。	
評価方法と評価割合	平常点：30%（発言等の積極性） レポート・提出物：50% グループワークの他者評価：20% 出席時間数の3分の2以上を評価対象とする。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1]（医学書院）	
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2]（医学書院）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 姫野雄太：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの研修の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして、在宅看護の知識や技術について教育する。	